

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社R-CORPORATION

②施設・事業所情報

名称：龍巖寺保育園	種別：認可保育所	
代表者氏名：増子 健一	定員（利用人数）：180 名	
所在地：〒214-0022 神奈川県川崎市多摩区堰3-11-13		
TEL：044-811-0436	ホームページ：https://daijikai.jp	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：1953年05月20日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人大慈会		
職員数	常勤職員：33 名	非常勤職員：14 名
専門職員	（専門職の名称）： 名	栄養士：3名
	保育士：34名	調理師：2名
	看護師：2名	子育て支援員：1名
施設・設備 の概要	（居室数）	（設備等）
	居室：0.1歳児室	設備：給食室
	居室：1歳児室	設備：調乳室
	居室：2歳児室2部屋	設備：多目的室
	居室：3歳児室2部屋	設備：浴室
	居室：4歳児室2部屋	設備：園長室
	居室：5歳児室2部屋	設備：会議室（休憩室）
		設備：事務所
		設備：更衣室
	設備：トイレ	
	設備：倉庫	

③理念・基本方針

<理念>

1.我々は、まず福祉の増進に寄与する者でなくてはならない。
福祉とは人々が幸福に日々を暮らしてゆく事である。時代と共に社会は変化し、それに伴い人の感じる幸福感も変貌してゆく。しかし我々は幸福の核は常に家族であると認識し、それが円満安寧であるようにサポートし、時には積極的にコーディネートする事が我々の第一の仕事である。

2.我々は、子どもたちの親、家族の幸せを守り、育まねばならない。
子どもたちは如何なる人種、能力、環境、立場の違いに拘わらず、等しく愛され、護らなければならない。我々はその責務を、その家族と分かち合い、その心身の健やかな成長と幸福を希求する。そのために我々は、子ども、家族、社会の求めるものを常に探り、その求めに応じた、適した援助を行わなければならない。

3.我々は、我々自身その一人一人が幸福であるように努力し、協力しなければならない。我々の安心、健康、協調は、寛容の精神を強め、奉仕、援助の能力を鍛える。子どもたちは我々に何より安らぎと、頼もしさをもとめているのだから。

4.我々は、生命の尊さと、大切さと、喜びをよく知っていなければならない。そして それを伝える能力、技術を磨いていこう。

<基本方針>

1. ひとりひとりの人格を尊び、守り育てる

子どもの人権を第一に考え、子ども達に最善の環境（人、物、場）を与えることができるように常に研鑽し、子どもたち一人ひとりに寄り添う保育を行う。また、子どもたちを取り巻く多くの人々についても充分尊重し、子ども達の成長に生かせたい。

2. 安全で安心し、中庸な保育

保育所には様々な家庭環境の方が子どもたちを預けている。特色を前面に出し過ぎて一部の方のみに受け入れられるような保育内容ではなく、福祉的でスタンダードな保育（多くの人に満足が与えられる）を実現し、多くの方が利用しやすい保育園を目指し運営する。またその事が反映しバランスの取れた人格を育成する。子どもたちにとって安全で安心でき、安らぎを与える場であることを前提としてその中で、子どもたちの感性を十分に刺激し磨けるような保育を展開する。

3. 協調、おもいやり、相互援助

子どもたちの安定した成長は安定した環境の中にある。子どもの育ち、子育て環境を社会全体で支えるという視点で保育園の役割を十分理解し、保護者、子どもたちを取り巻く人々と信頼しあえるようにする。その為に相互に人間性を高め、何が子どもたちにとって良いかを常に共に考え研鑽し、子ども社会全体の向上へ寄与できるようにする。

<保育目標>

十分に養護の行き届いた環境の下、くつろいだ雰囲気の中で子どもひとりひとりの欲求を満たし生命の保持、情緒の安定を図る。

1. 健全な心身を持つ子ども
2. 命の尊さを感じられる子ども
3. 自発的、積極的に行動できる子ども
4. 自己表現のできる子ども
5. 思いやりのある優しい子ども

④施設・事業所の特徴的な取組

<龍巖寺保育園の特徴的な取り組み>

1. 園と保護者との対話会を定期的で開催し、利用者の意見に耳を傾けている。
2. 保育の振り返り、人権チェックリストの活用。
3. 各研修会への参加（川崎市、多摩区、法人内・外）
4. 保育アンケートの実施。改善に向けた対応策の実施。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2022年04月25日（契約日） ～ 2023年02月06日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（2010年度）

⑥総評

【龍巖寺保育園の概要】

●龍巖寺保育園は、社会福祉法人大慈会（以下、法人という）の運営です。法人は昭和28年から「龍巖寺幼稚園」として運営を開始し、昭和50年9月に社会福祉法人となり、同幼稚園を保育園に改称すると共に、川崎市の方針に沿い、川崎市立保育園公設民営化への協力としての保育園運営を手掛け、完全民営化も実現し、現在、川崎市内に9園を運営する歴史ある法人です。（内、2園は小規模保育事業）

●龍巖寺保育園はJR南部線久地駅から徒歩5分の、駅から至近の距離にありながら、静かな住宅地の中に位置しています。園舎は2棟あり、第一園舎は2階建てで、屋上に第2園庭が設けられています。第一園舎は高月齢の1歳児（あひる組）以上の園児が利用する体制とし、1階に4歳、5歳児の幼児、2階は高月齢の1歳児から3歳児までが利用しています。定員が180名と多い為、原則各年齢2クラスに分けて保育を行っています。但し、0歳児は定員12名なので1クラスで実施しています。第2園舎は、低月齢1歳児と0歳児が1階のフロアを利用し、2階は園長室、事務所、会議室等が設けられています。園庭は「くの字型」に建てられた園舎に囲まれた中庭的な形態であり、どのクラスからも子どもたちが遊んでいる姿を見ることができます。龍巖寺保育園は、「龍巖寺」の寺の境内の活用から始まり、隣には「龍巖寺」が建立しており、常に掃除が行き届き、厳かな風格が保育園にも静かに影響しています。

◇特長や今後期待される点

1. 【職員を大切にしたい園運営】

龍巖寺保育園の園運営において、常に「職員こそ一番大切な資源である」と考え、様々な保育観・価値観を持つ職員が共に勤務する上で、「働き続けたいと思える職場」を作ることこそが職員の定着・人材育成の根幹と考え、心がけています。職員確保に関しては、実習生の受け入れを積極的に行い、保育士養成校の担当者との関わりを深め、連携を図り、「今」の学生を知ることや情報収集に努め、自己実現できる施設として、龍巖寺保育園を選んでもらえるよう尽力しています。また、人材育成の基礎として、職員が「こうしたい」、「もっと良くしたい」という思いを抽出し、その思いを実現すべく取組む体制として、思いを自由に発言できる、自己実現ができる風土、思いを受け止める園長や副園長をはじめ、リーダーが在籍しています。園長、副園長、リーダーは新しい時代に言及し、柔軟に物事を捉えるスキルを有し、互いに育ち合う環境を創り上げています。

2. 【保護者（子ども）との信頼関係構築への努力】

龍巖寺保育園では、保護者との連携を重視し、関係作りを大切に行っています。年度当初のクラスオリエンテーション、クラス懇談会、個人面談、園だより（毎月発行）、各行事のお知らせ等を通して、保育の趣旨（目的・意図）、保育内容について説明を行い、理解を促しています。さらに、毎日のクラスフォト投稿や、保護者参観型の行事、保育参観、クラス便り（定期発行）等により子どもの成長を伝え、保護者と喜びを共有するようにしています。送迎時には保護者と直接話をするよう努め、毎日の連絡帳から園・家庭での子どもの様子を相互に伝え合い、家庭・保護者に気になる様子等が見受けられた場合は、成長記録や個人面談記録、ケース記録等に記録し、配慮するよう職員間で共有を図っています。新型コロナウイルス禍（以下、コロナ禍）以前は定期的に「園との対話会」を実施していましたが、現在はZoomで継続し、保育参観、保育参加はオンラインで動画配信を行う等、園と保護者との連携・絆を強化し、工夫に努めています。

3. 【地域の子育て支援】

現在、コロナ禍において、地域の福祉ニーズの把握に苦慮する状況です。川崎市・各区役所等の行政機関、地域の保育所、小・中学校、社会福祉協議会等の関係機関とは緊密に連携を図りながら地域子育てにおけるニーズを把握し、ニーズに基づいて地域子育て支援ネットワークを作り、地域の中で力を発揮できるよう努めています。龍巖寺保育園は、園庭開放・育児相談・交流促進・情報提供の実施等の地域子育て支援事業を実施しており、地域密着を実績とする「地域に親しみのある開かれた保育園」として活動している保育園であり、地域子育て支援の基地となるよう最大限努めています。また、園見学会が育児相談の機会ともなり、対面式とオンラインによるハイブリッド形式を採用し、多様な家庭に対応できるよう努めています。また、近年の育児の孤立化を踏まえ、産後鬱を抱える方等に対して、保育所の特性を生かし、関係機関と連携し、「産後ケア支援」にも注力しています。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

施設名：龍巖寺保育園

《第三者評価を受審した感想・自己評価での取り組みの感想》

今回、このような第三者評価受審の機会をいただき、ありがとうございました。龍巖寺保育園は、前回の受審から少し間が空いており、また一から保育内容や、園運営に関わる全ての事柄について見つめ直すことができ、大変貴重な機会となりました。自園の強み、課題となる点を改めて認識することができました。

長い歴史の中、地域の方々をはじめ、その時々に通って下さった園児や保護者のみなさまの支えをいただきながら、歩んでまいりました。

今回の評価結果を受け、さらなる施設の充実を目指し、努力していきたいと思えます。

《評価後取り組んだ事として》

1. 人権を大切にした保育について
 - ・自己評価 振り返りチェックリストの活用
2. 環境設定の見直し（安全管理、衛生管理の徹底）
 - ・こまめな清掃、点検、修繕など
3. 就労環境の改善
 - ・働きやすい職場づくり
 - ・自己評価シート記入、自己実現に向けた取り組み
 - ・勤務体制の見直し（事務時間の確保、休憩時間の充実、残業の軽減）

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり